

■林鷲峰 儒学者。林羅山の第三子。林家学塾を整備し，幕府初期の編纂事業を主導した。

はやしがほう

・ ・ ・ ・ ・ 1618＝ 京都に生まれた。林羅山の第三子であるが，上の2人が早く亡くなったので，羅山の跡を継いだ。

父は早くから家康に従って江戸に来たが，母と京都に残り文詞是那波活所に，書道は松永貞徳に学ぶ。

徳川家光将軍1623＝ 5歳：

紫衣勅許無効1627＝ 9歳：

寛永禁書令・1630＝12歳：この年，父羅山が上野忍ヶ岡に土地を与えられ，学寮を建設。

徳川秀忠没・1632＝14歳：

鎖国令Ⅱ・ ・ 1634＝16歳：江戸に東下，召されて三代将軍家光に拝謁し，以後，父とともに，礼制を議し，五経を論じる。

東照宮社殿・1636＝18歳：

島原の乱終・1638＝20歳：評定所に出仕して，公事訴訟に関係。官暇があると御三家に行って書を講じたりもする。

寛永飢饉始・1640＝22歳：父と共に諸家の系図を編集。

家光鎖国完成1641＝23歳：

また朝鮮信使の問題や明国応援のことなど，外交問題の起きた時には，将軍の前で書面を読んだり，返書を認めたりすることにかかわって功績があった。

・ ・ ・ ・ ・ 1645＝27歳：\*朝廷が家康を祭る社として東照社という名を贈ってきたことに対し，社は尋常の神祇を祭る所で，宮に及ばない，これは宜しく宮と称すべきだという意見を出し，改めて宣旨があつて東照宮と称するようになった。この年，法眼となる。

徳川家光没・1651＝33歳：

承応事件・ ・ 1652＝34歳：「日本王代一覧」成る。

隠元黄檗宗・1654＝36歳：

明暦の大火・1657＝39歳：父羅山が死去，遺領9百石と，さらに2百石，計千百石が与えられる。

人身売買禁止1658＝40歳：幕府が金を出し珍籍を蔵蓄することになって，その管理をし，

・ ・ ・ ・ ・ 1660＝42歳：「本朝稽古篇」「本朝一人一首」成る。

清帝国始・ ・ 1661＝43歳：法印の位に叙せられ，

・ ・ ・ ・ ・ 1662＝44歳：先に父と共に始めて中断していたものを受け継いで，国史編纂の事業を開始，長男の林梅洞や次男の林鳳岡と共に，心血を傾けて当たり，

殉死禁止・ ・ 1663＝45歳：「日本王代一覧」刊。\*五経の講義が終わって，その私考を作ったことが将軍の耳に達し，弘文院学士の称号を許された。

・ ・ ・ ・ ・ 1664＝46歳：「七武」刊。国史の続修を拝命，

諸宗寺院法度1665＝47歳：「忠経諺解」刊。「本朝一人一首」刊。

酒井忠清大老1666＝48歳：

入鉄砲出女令1667＝49歳：「日本書籍考」刊。

・ ・ ・ ・ ・ 1670＝52歳：\*その編集を終了し，「本朝通鑑」として将軍家綱に奉った。

東西海運確立1672＝54歳：

頗る熱心な読書家で，このほか屢々幕命を受け編著書が極めて多い。人が「あまり心を使わず養生せよ」と言う「武人が兵をとって戦い，死をいたして功を遂ぐ。学者も書を読んで説を立て，ために命を落とす。これはもとより望む所だ」と言った。一代で作った詩は1万首，文は2千編にのぼったと言われる。

徳川綱吉将軍1680＝62歳：\*致仕。幕府から養老料として3百俵が出たが，没した。

ほかに「泣血余滴」「周易訓点異同」「本朝言行録」「国史実録」「日本事蹟考」「歴代笙宰録」「鷲峰文集」など刊。